

ばんけい

教育ほつとにゆーす
かわら版こ みち
教育の小径No.83
9月号

2015 September

今月のことば

断腸の思い

腸(ちょう)とは「はらわた」ともいいます。内臓のことです。「断(だん)」は切り離すこと。はらわたが断ち切られるほどの、とても苦しいこと、悲しいときの気持ちをいいます。



国土館大学教授
北 俊夫先生

社会参画力の育成 —社会科だけの課題か

- 社会参画力とは、よりよい社会の形成にかかわる力のことです。社会のことを理解することで、社会により主体的にかかわることが期待できます。
- 子どもたちを国家・社会の形成者として育てるためには、社会科を中心にあらゆる教科で指導することが求められます。

今月の記念日

空の日(9月20日)

1940年(昭和15年)、航空思想の普及を図ることを目的に制定された「航空日」が起源です。1992年(平成4年)に「空の日」に改称されました。この日は晴れの特異日だそうです。

社会参画力と社会科の役割

いま、社会科の授業研究などで「社会参画力の育成」が話題になっています。社会参画力とは硬い言葉ですが、平たく言えば、よりよい社会の形成に主体的にかかわる力のことです。単に社会の活動に参加するとか協力するといったレベルではなく、企画・計画する段階からかわることを意味しています。社会参画力は一人前の社会人として社会のなかで活躍し、社会に貢献するため、すべての人に求められます。これまで「社会形成力」とも言われ、社会へのかかわり方やかわる力の質を問題にしてきました。

社会参画力を身につけ発揮させるためには、かわる対象である社会のことを理解していることが不可欠です。社会のことを誤って理解したり、不十分な理解であったりすると、よりよくかわることは期待できません。

また、社会のことがらを他人ごとではなく、自分ごととしてとらえることが重要です。自分ごととしてとらえるとは、自分(たち)は社会で働いている人々や社会の仕組みに支えられていること、自然環境からさまざまな影響を受けていることなどを理解することです。さらに、先人のさまざまな努力や業績のうえにいまの社会が成り立っているといった、歴

史的な視点から社会を理解することも大切です。

社会がわかるようになると、社会の問題や課題に気づき、それらを解決しようとする意識が芽ばえてきます。この芽ばえが、社会参画力の基礎です。

こうしたことを中心に学ぶ教科は、社会科を除いてほかにありません。社会科は社会のことを学ぶ教科だからです。社会参画力の基礎を養うために、社会科の教科としての役割と使命がいま問われています。

ちなみに社会科の教科目標には「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とあります。

教育の「目的」につなげたい

「社会参画力」を育てる教科は、社会科だけでしょうか。「社会参画力」を育てるという課題は社会科というひとつの教科だけでなく、学校教育のあらゆる場面で常に意識しながら指導すべき、重要な教育課題です。

このことを理解するよりどころは、教育基本法にあります。その第1条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない

い」と規定されているからです。子どもを教育する目的は、人格を形成するとともに、国づくり、社会づくりによりよく貢献する人間を育てることです。

国語科や算数科、理科、音楽科、体育科、さらには道徳科などすべての教科が、持続可能な社会の形成に参画する力の基礎を育てることとかわっています。それぞれの教科が、将来よりよい社会の形成者を育てる観点から、どのような役割を担っているのかを確認することが求められます。

そのためには、「なぜ、子どもに国語科を学ばせるのか」「子どもに理科を学ばせる意味は何か」など、各教科の役割や使命を子どもたちにもわかるように説明できるようにする必要があります。

日々の授業においては、教科の役割を大局的な視点から捉えることを見失いがちですが、各教科の学習に当たって、「何のために学ぶのか」「何を目標しているのか」を明らかにすることは教師にとっても子どもにとっても大切なことです。



授業参観の仕方

学校では年間に何度か、保護者が授業参観を計画しています。多くの保護者は、わが子が教師の発問や指示にどう反応しているか、授業にきちんと参加しているか、授業内容をよく理解しているかなど、どうしても自分の子どもだけに目が向きがちです。授業中に、教師の指導を遮ってわが子に言葉をかける保護者もいます。そのため、授業を参観する際に心がけてほしいポイントは前もって伝えておくことよいでしょう。

わが子の学習の様子だけでなく、友だちとどのように学んでいるか。友だちにどのような影響を与えているかなど、友だちとどのようにかかわり合いながら学習を進めているかについても観察してほしいものです。このことは、わが子が学級集団のなかでどのように学習しているかを観察することです。学校は共に学び合う集団生活の場ですから、保護者には友だちとのかかわりを見てもらいたいものです。

授業参観している保護者の態度がたびたび話題になります。授業中に保護者同士でお喋りすること、携帯電話をかけることは厳に慎みたいものです。終了後に、保護者会などが設定されている場合もありますから、授業を観察した感想や疑問点などをメモしておくことよいでしょう。

学校行事などの参観では、写真やビデオなどを撮影する保護者もいます。個人のプライバシーや肖像権に触れる可能性もありますので、学校としてのルールを事前に伝えておきます。



教育時事
教育の動向

自動体外式除細動器(AED)

自動体外式除細動器(AED)は、心室再動の際に電極パッドを胸に張りつけることで、機器が心電図を自動的に解析します。必要などときには機器が自動的に電気ショックを与え、除再動を行うことで、心臓の働きを取り戻すことが可能になる医療機器のことです。

こうした機能をもつAEDは、医学の専門的な知識や技術が無くても使えるようになってきました。いまでは、駅や公共施設、コンビニやデパートなど人が集まる場所で見ることが出来ます。文部科学省の調査によると、ほとんどの学校に設置されています。

文部科学省は、学校安全推進事業として、教職員等を対象にAEDの取り扱いを含めた心肺蘇生法実技講習会の実施を支援しています。平成22年に作成した教職員の研修用のDVD「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」では、AEDを用いた心肺蘇生法など応急手当の方法を解説しています。

消防庁では、小学校高学年以上を対象に「救命入門コース」などの救命講習を開催しています。また、普通救命講習の指導を行うことができる応急手当普及員の養成も実施しており、教職員が救命の資格を取得することも期待されています。応急手当について研修する機会を設けている学校も増えてきました。

コラム **ものの見方・考え方とは何か(11)**

多面的、総合的に

あるものを見たり、ある事柄について考えたりするとき、ある一つの側面を強調したり、重視したりすることは、その対象を特徴づけるうえではとても重要なことです。そうした見方や考え方をすることによって、他との差別化を図り、メリハリをつけることができるようになるからです。

ところが、それだけでは対象に対して、一つの見方を決めつけたり方向づけたりしてしまうこともあります。大切なことは、対象を総合的に観察し検討したうえで特徴点を示すことです。特徴点とはその対象ならではの個性でありよさでもあります。

例えば工場を見学するとき、子どもたちにただ漠然と観察するようには指導しません。意図的に観察するため

に、事前に見学の視点を指導してから見学を促します。これらの視点は工場での生産活動を多面的に観察するためのものです。見学後には、観察の結果を視点ごとに発表します。その結果、子どもたちは工場での生産の様子を総合的に理解できるようになります。

教師が子どもの学習状況を評価する際にも同様な手法がとられています。まずは観点ごとに学習状況を把握します。これが観点別評価です。観点ごとの結果をもとに総合的に評価します。これが評定です。

ものや人など、対象について見たり考えたりするとき、まずは予め視点や観点を設けて多面的にとらえます。そこでとどめずに、次にそれらに関連づけ、総合化して対象を理解します。その結果、全体像を把握し、対象のよさや特色などを理解することができるのです。

INFORMATION

てのひら文庫

文部科学省後援 「てのひら文庫賞」読書感想文 全国コンクール 作品募集中!

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい。

—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修 児童文学作家 石森延男
- A5判 16~28ページ 4色・1色
- 1~6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊160円(税込)



編集後記

「一度も使われていないのに維持費がかかりすぎ」「人命に関わるものを撤去するのはいかなものか?」と、わが町内会では設置したAEDの今後が話題です。今なお決着がつきません。そこで、AEDの役割を見直すということで、近く応急手当の講習が行われます。「なぜ設置するのか」の再確認です。(T記)

企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2015年9月1日